

佐野小学校区 きずなづくりトークの意見概要と方向性

(※●は市の回答)

10月18日 北上文化プラザ

	現況・課題	今後に向けての対応策・要望
見晴台	<p>○年6回、放水や炊き出しなどの防災訓練を行っている。</p> <p>○参加者は400名ほどで、まだ十分な人数ではない。</p> <p>○避難完了の札を玄関先に下げてもらい、掲示の無い住宅から確認していく。</p> <p>○自治会活動全体を見直す協議会の第2回目を開催する。</p> <p>○中学校、PTA、地域との連携を強化するため、北上中学校区の地域連絡会を立ち上げた。地域のきずなづくりに生かしていきたい。</p> <p>○地域連絡会で、「地域の防災訓練に中学生を参加させてほしい。」という意見が出た。訓練に出た中学生には参加証明書を作成し、学校へ提出するようにした。</p> <p>○住民の防災意識は高いと思う。</p> <p>○平日の昼間は、会社勤めの世代が地区にいないことが問題である。</p> <p>○リタイアした人、元気な人で可搬ポンプの放水訓練を行っている。</p> <p>○防火水槽が30基ほどあり、きれいにした。</p> <p>○放水訓練を行っているので、初期消火の対応は可能と思われる。</p>	<p>○東北の震災で、避難場所における中学生の活躍が話題になった。力を借りたい。</p> <p>○訓練の装備等を充実させていきたい。</p> <p>○有事の際は飲料水にも使わせてもらいたいと考えている。</p>
	<p>○避難所に集まらなくても自宅から出ない方が危険は少ないのではないかと。</p> <p>○ごみ問題に関しては、見晴台の事業者の方をお願いして、3日～1週間くらいまでは何とかできるのではと思う。(環境美化推進委員会)</p> <p>○見晴台は道路が心配である。市から援助がくるまでは、ユンボや人力車を持っている方をお願いする。(環境美化推進委員会)</p> <p>○組長を主体とした訓練を行っている。組長が引率、人員の把握を行う。</p> <p>○見晴台は他の地域からの寄せ集めのような集団で、近所付き合いをしたくない人も多いのが課題である。</p> <p>○お祭り、運動会に2000人ほど参加している。自治会加入率は市でトップである。</p>	<p>●避難所に集まり、無事かどうかの確認をすることが必要になる。(市長)</p>

	○本当の意味のきずなづくりはどうしていったらいいか。	
	○見晴台では、PTAと子ども会はほとんど一緒である。 ○見晴台は、運動会をしっかりと行っている。(消防団)	
佐野	○今までの災害で被害を受けなかったため、住民の訓練に対する意識が低い。	○東北の震災を機に、意識を高めていきたい。 ●防災意識の低い住民には、市の職員が講義をして意識を高めた方がよい。(市長)
	○昔からの組織なので、地域性はある。	○各組単位での訓練、報告をしつこくやってもらおうと考えている。
	○見晴台と夏祭り、運動会が合同で行われている。見晴台の人は活発で、運営もしっかり行っている。	○体育行事で活躍している人を防災にも活かしたい。
	○行事を合同で開催すれば、他地域の住民と顔見知りになれる。	○今後も見晴台と一緒に地域行事を行っていきたい。
	○地理的に離れているので、消防が来るのも遅くなると思われる。対策として、消火器の場所の確認、訓練をした。 ●本来は粉の消火器だが、付近の車が汚れるので水の消火器を使っている。(市長)	○消火栓の確認も行う必要がある。
	○自営業で自宅にすることが多い。近所の人顔が分かっており、普段からお互いに声を掛け合っている。コミュニケーションは取れている。 ○新しく住み始めた住人に関しては、あまりつながりがない。 ○佐野では、法事の際に大鍋で料理をつくる機会があり、大人数の料理をつくる訓練となっていた。(民生委員) ○お祭りなど、住民で協力して料理をつくる機会は小さな地区ごとで行われている。避難所での炊き出しの訓練になり、顔の見える関係にもつながると思う。(民生委員) ○大人数の料理をつくる際の量、手法などは経験を積まないと分からない。田舎では昔からやっていることである。そういう機会も必要と感じる。 ○佐野では、日頃から法事などで役割分担を行っており、コミュニケーションも取れている。(消防団)	○消防団が統制されていることは安心だが、頼りすぎず、小さな単位でもしっかり訓練しないといけない。 ○中学生を集めて力を借りたい。小・中学生が集まる行事を考えたい。
	消防団	○今までは地元の間人だけで消防団を構成していたが、現在は見晴台出身の団員もいる

	<p>ため、見晴台の防災訓練にも顔を出しやすくなった。</p> <p>○佐野・見晴台は別地域として活動していたが、今はだいたいぶまとまってきたと思う。</p> <p>○管轄は基本的に佐野・見晴台地域である。火災の時には徳倉とも連携する。</p>	
	<p>○佐野地域だけでなく新興住宅地でも団員の勧誘を行いたい。若い団員が幼少時代の友人を勧誘し、5・6名が入団した。</p>	<p>○いきなり新興住宅地に赴いて勧誘するのは難しいので、友人つながりでの勧誘を行っていききたい。</p>
佐野小	<p>○緊急連絡網はフェアキャストだが、使用できない可能性もある。</p> <p>○佐野小独自で別の連絡網、マメールを使う。連絡網が2本あるので、恵まれていると思う。</p> <p>○職員39名のうち、徒歩30分圏内に住んでいるのは3名である。災害時には職員の到着が遅くなる恐れがある。</p> <p>○3. 11以降、学校としての防災意識は高い。</p> <p>○災害時には、小学生よりも中学生の方が戦力になると感じる。</p> <p>○地震がきたら、保護者が引き取りに来るまで児童は学校で預かる。</p> <p>○年1回、参観会の後に引き取り訓練を行っている。(PTA)</p> <p>○災害についての話し合いはされていない。(佐野子ども会)</p> <p>○学校の防災体制については把握している(佐野子ども会)。</p> <p>○小学校、中学校両方に子どもを迎えに行く場合、時間がかかるので実際に引き取ることができるか不安である。(佐野子ども会)</p>	<p>○職員が学校にいない時間が多いため、地域に支えてもらわなくてはならない。</p>
	<p>○車に乗ったまま引き取る訓練だったにも関わらず、実際に引き取ることができたのは30分後だった。確実に子どもを迎えにいけるか不安である。(佐野子ども会)</p>	<p>●3. 11で、車で逃げた人は被害にあった。街場での運転は絶対にしない方がいい。伝えてほしい。(市長)</p>
	<p>○PTAと自治会とのつながりはできていない。(PTA)</p> <p>○自治会から、夏祭りの協力を依頼されている。夏祭りは、子どもも地域の方と交流し、顔を覚えられるいい機会になる。(PTA)</p> <p>○家庭と地域が連携しないと健全な教育はできない。町内会が2つなので、お話がしやすく、恵まれている。</p> <p>○教員が学校にいない時間が多い。そのようなときに、地域が子どもたちにどんな対応をしてくれるかが課題である。</p>	<p>○学校だけでなく自治会ともつながりをつくらないと、防犯対策に対しても協力が得られない。佐野地域とのつながりを、子どもを通じてつくりたい。(PTA)</p>

	○佐野、見晴台はお互いにいい関係を求めて交流しようとしている。	
体育振興会	○地域のきずなはまだまだ薄いと感じる。 ○大きい組織としての体育振興会運営を2年前から始めた。任期は2年で、地域のリーダー育成を目指す。	●体育振興会の取り組みは伝えていきたい。(市長)
	○根源に足りないのはきずなである。	○遠足や、運動会など住民が参加できるような行事を考えたい。
	○課題は地域のつながりをどうやって広げていくかである。大きなイベントを開催し、自治会と連携するよう話していかなければいけない。 ○子ども会との連携が取れていない。子どもが多い地区なので、子どもとのつながりを持つことで親とも連携していきたい。	○大きなイベントを開催し、自治会と連携するよう話していかなければいけない。
全体		●行政は予算も人も減ってきており、支援は限られてくる。校区単位でのつながりを強め、自分たちで解決するようにしてほしい。(環境市民部長) ●自治会や子ども会、老人会に入る人が減り、力が弱っている。さらに組織同士の連携ができていない。力が弱まっているからこそ、連携が必要である。(環境市民部長) ●校区単位でまとまるには、自治会・各団体それぞれのきずなづくりが必須である。最小の組単位のつながりを大切にほしい。そのための、市からの支援も考えていきたい。(環境市民部長)